

114  
A 4576

第十一号

三月

正院  
往復課達齊



卿  
輔



七年三月三日

度量衡改正掛

大正  
四年四月  
贈

昨年二月中度量衡取締方法中尺度確定之儀  
正院、御伺わ成り後、御御位之未、昨十二月中  
別紙之通り申上申わ成り、今何れ御差圖も、御  
以有尚存し通り御上申お申上候事、御  
十二月甲申申上候事、御御位も、御  
正院御上申上候事

大正四年





月中上清之及小度量衡取締方法中  
正定之儀只後身之正差同子仰小末  
中右御新儀之程故而正儀位之及  
(右同音之)把之身之正儀之通  
種之昔情之正身指合之身之及  
取締之制通之相之身之及  
又進之通正之及之身之及  
(之身之及)御評安御差圖お之標  
正股尚又上儀之及也

度量衡取締

六年十二月四日

度量衡 改正掛 〇〇

中右院、御何生、小度量衡取締方法  
度、直、一、事、其好、属、之、儀、位、之、及、也  
(之、身、之、及)御評安御差圖お之標

止限上御上申案

取調相伺候度量衡取締方法之儀兼而伺

歐米諸如、之、已、有、用、之、儀、  
持、子、之、身、之、及、御、評、安、御、差、圖、お、之、標、  
引、継、り、持、不、得、有、事、  
(書)

濟相成爾後尚又右取調討究候ニ就中享保尺撰用  
之一事斗量ニ関涉シテ不充分之儀有之<sup>候</sup>ヨリ本年二月  
中再議之上折衷尺ヲ以テ更ニ原尺ト定ムル云々及上請候  
處右評議如何相成候哉其後屢々御差圖之程請願  
候得共于今何等之御沙汰モ無之抑右度量衡取締之儀ハ  
屢々上陳候通り御國度量衡近世漸ク其制度區々ニ属  
シ其器法濫雜ニ流レシヨリ内外商法其他人民取興之際ニ  
於テ紛議ヲ生スル者不勘地方官廳比々相懇へ各地ノ苦情  
頻々相聞フ且偽造斛斗秤尺ノ條ノ如キ新律綱領嚴然  
之ヲ掲載スル所ニシテ尺度ハ從來定制モ無之等甚以不都

合之次第實ニ頃刻々ク可ラサルノ器物一日忽ニス可ラサルノ法  
制最モ急務ノ儀ニ付先ツ旧制ニ仍リ之カ原器ヲ定メ之カ規  
則ヲ設ケ以テ<sup>是</sup>各地方管廳ニ付シ其一般取締ハ當省都テ  
之ヲ管スル等其方法タル全ク舊制舊器ノ宿弊ヲ矯メ以テ  
一時之カ責ヲ塞クニ供シ且將來度量衡改正ノ典ニ便スルニ過キ  
スト雖モ勢誠ニ已ムラ得サルニ出ツル者其上請スル所都テ既ニ  
御允可相成其允可ニ係ル所ノ者ハ原器并諸器械製作規則  
書類上梓等施行ノ装置既ニサ落成ニ及ヘリ然ルニ唯其再  
議ニ涉ル所ノ尺度確定ノ一事可否其廟裁ヲ得ス時日ヲ過ス  
幾ト一年抑モ此一事省議村選ニシテ屢々廟議ヲ煩スト

大藏省

雖モ其上請スル所所原尺ノ制折衷尺ヲ以テ伺濟享保  
尺ニ換ニトスルニ果シテ可ナレバ則可果シテ否ナレハ則否トシテ  
之ヲ前議ニ復スヘク其尺度ニ関スル斛斗容量ノ如キハ在来ノ寸  
積ヲ變更シ旧新量ヲシテ増減ナカラシムレハ亦妨ナシトス廟  
議果シテ享保折衷二尺ノ御推搗ニ候ハ前頭具陳候  
通り度量衡之制必至切迫之事情ニ付何レモ速ニ御評  
決相成候様致度若夫度量衡ノ制其起原正シク其  
用法便ナル者ニ就テ之ヲ改正シ以テ萬世不易ヲ期スベシ  
ト云フカ如キ是方今必ス講究セサル可ラサル所ニシテ彼佛國  
メトリック式ノ如キ西洋諸國最モ貴重スル所ノ者我國於テモ

宜ク此等ノ制ヲ採擇スヘシト雖モ從來我度量衡器法濫  
雜量數區々ナルガ故ニ至今彼我ノ比較未タ一定セス比較一定  
セサレハ彼我ヲ分テ新旧ヲ判スル能ワズシテ改定ノ實舉ル可ラス  
省議ノ如キハ改正ハ之ヲ將來ニ期シ取締ヲ以テ之ヲ目今ニ便セ  
ントスルナリ然而其取締方法ノ亦タ將來改正ノ典ニ便益アリ  
ト為ス者ハ其我器法ヲシテ粗ヲ精ニ就シノ其我量數ヲシテ濫  
ヲ正ニ歸セシメ曾テ我器品ヲ彼器品ニ比シ兼テ我量數ヲ  
彼量數ニ較シ其彼我比較一般人民ヲシテ之ヲ瞭然ナラシ  
ムレバナリ此旨趣者ノ如キ亦曾テ上陳スル所ナリ廟議果シテ右  
等ノ得失御洞察ノ上ハ何卒急速右御評決相成下先ツ右

右取締ノ典被奉候様致度此段敢テ上申候也

明治六年十二月五日

大藏卿大隈重信

右大臣岩倉具視殿